

# 自然と文明が調和した 理想郷山形の実現をめざして



山形県は、蔵王、吾妻、鳥海山や出羽三山(羽黒山、月山、湯殿山)などの名峰や、県土を縦貫する母なる川最上川、全国一の面積を誇るブナの天然林など美しく豊かな自然に恵まれており、また、草木塔に象徴されるように、自然の恵みに感謝し、自然と共生する文化が息づいています。

本県では、このかけがえのない豊かな自然や人と自然との調和を基調とした暮らしを守るとともに、それらの自然を資産と捉えて、活かしながら、「自然と文明が調和した理想郷山形」の実現を目指しています。

この実現に向け、県民、民間事業者、行政等が、パートナーシップを組んで環境保全活動を推進しており、県民総参加で、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会に向けた取組みを進めております。

山形県知事 吉村美栄子

## 山形県におけるエコアクション21の取組みについて

### 環境分野における施策の展開方向・将来像

本県には、草木塔(※)にみられるような人と自然との望ましい関わりを尊重する精神文化とそれに基づいた県民の暮らしが受け継がれています。このような精神性のもと、森林の保全や水資源の確保などを進めつつ、人と自然とのつながりを大切にしてきた県民のこれまでの様々な環境活動をより一層高めていきます。低炭素社会の実現に向けた地域システムづくりに取り組み、経済や地域の活力向上に結びつけ、国内外を牽引する「環境先進地山形」を形成していきたいと考えています。

※草木塔(そうもくとう) 草木をはじめとした自然の恵みに対する畏敬・感謝の心から、伐採した草木の魂の鎮魂などのため建立されたと考えられる石造物。現存するものうち、多くが山形県に所在。

### 環境施策を推進する上で、エコアクション21が果たす役割

低炭素・循環型社会を構築していくためには、事業者が自らの事業活動を自主的に見直し、これまで以上に環境への負荷が少ないものに転換していくことが必要です。そのために環境マネジメントシステムの導入をすすめ、事業者の自主的な環境への取組みを推進することが重要だと考えています。中小企業でも取組みやすい環境マネジメントシステムであるエコアクション21は、こうした事業者の取組みを後押しするものと、強く期待しています。

### 環境基本計画におけるエコアクション21の位置づけ

第3次山形県環境計画に掲げた6つの基本目標のひとつに「地球温暖化を防止する低炭素社会の構築」を設定しており、この中で事業所に対しては、二酸化炭素排出削減に向けた自主的な計画策定と取組みの促進をお願いすることとしています。エコアクション21については、取得事業所数の数値目標を設定し、県内市町村やNPO等と連携して普及拡大に取り組んでいます。

### 「山形エコアクション21」について

「山形エコアクション21」とは、全国統一基準であるエコアクション21に、バイオマスエネルギーの導入や、県産品の優先購入など地産地消の推進、地域環境教育の実施、あるいは最上川の水環境保全活動への参加など、山形県ならではの独自の要求事項を追加したものになります。山形に根を下ろし事業活動を営む企業が、「山形エコアクション21」による地域の環境保全活動を実践することにより、地域への恩返しを行っていくという、まさに“郷土愛”が育む「山形らしい」地域密着型の環境保全システムとなっています。



#### 山形県のあらし

面積：9,323.46 平方キロメートル(東西約 97km、南北約 164km)  
人口：1,151,863 人(男 552,490 人、女 599,373 人)  
世帯：392,853 世帯 市町村数：35(13 市 19 町 3 村)

特産品：さくらんぼ、メロン、西洋なし(ラ・フランス)、米、牛肉、酒、ワインなど  
主なまつり：山形花笠まつり(8月 5-7 日：山形市)、新庄まつり(8月 24-26 日：新庄市)、黒川能王祇祭(2月 1-2 日：鶴岡市)

## エコアクション21を広めるために

地域に根ざした県独自の環境マネジメントシステム「山形エコアクション21」を始めました。



エコアクション21に山形県の特徴ある環境への取組み事項(「最上川をきれいにする」など)を追加するスタイルを採用しています。

EA21(山形県内) 山形EA21  
66 事業所 (H27.1現在) 49 事業所 (H27.1現在)

郷土愛を下地に認証取得の意欲喚起に成功  
1項目の選択制で中小企業にも  
取り組みやすい設計

### 山形EA21ガイドライン

EA21ガイドライン + 追加要求事項

1. 新エネルギー使用の拡大  
・バイオマス・雪氷融設備導入
2. グリーン購入  
・県リサイクル製品認定制度の製品を優先購入
3. 地産地消の推進  
・県産品の優先購入
4. 輸送に伴う環境負荷の低減  
・バイオディーゼル使用、エコ通勤の実践
5. 環境教育の実施  
・従業員・消費者にマイバッグを薦める  
・環境教育のための教材提供、施設設置
6. 環境安全  
・県内河川、森林等の保全活動に従事等  
・環境団体(最上川フォーラム、保全協等)に参加  
・河川アダプト制度に参加

山形エコアクション21を起点に、環境に積極的な取組みを検討する機運も生まれています。

- ・やまがた森林ノミクス：県及び県内全市町村が参加する「オール山形」体制で推進(木質バイオマス資源を活かした産業振興・地域活性化施策)
- ・山形県環境保全協議会会員数：198 社(H27.1 現在)
- ・美しい山形最上川フォーラム会員数：4,330 名(個人・団体 H26.11 現在)
- ・河川アダプト制度参加団体数：380 団体(H22)→ 476 団体(H25)

山形エコアクション21に関するお問い合わせは <http://eny.jp/>まで

他にも……

ISO14001と同じ

加点 ポイントに

建設工事入札制度における入札参加者等級格付け時における加点をISO14001と同じ+10点にして、エコアクション21取得を促進しています。山形市においても、加点制度を採用しています。

導入支援

平成22~24年度の3か年で導入補助金制度を実施しました。導入補助金による取得実績  
平成22年：14件 平成23年：6件 平成24年：7件

周知活動

エコアクション21地域事務局(NPO法人環境ネットやまがた)が開催する説明会などへ同席して県の補助・支援制度を紹介し、知らなかった事業所に知ってもらおう努力を続けています。山形エコアクション21のパンフレットも周知支援の一環として県が作成

## 課題とこれからの取組み

### 認証取得のメリットを周知

引き続き県内事業所への導入を呼びかけるとともに、特に、建設業の事業者に対して県建設工事競争入札参加資格の等級格付け時における加点制度などのメリットを周知して、加入を促進していきます。また、エコアクション21に限らず、環境改善に積極的な事業者に対して表彰を行うことなども、周知の一環と考えています。

### 入札加点制度のしくみの拡大を検討

将来的には、県の物品や役務の調達において、環境配慮・地球温暖化対策等を推進している企業を評価・優遇するしくみを導入できないか、検討を始めています。

### 市町村やNPOとの連携強化

加点制度における山形市の動きをきっかけに市町村との連携を強めていきます。また、環境ネットやまがたと協働して「認証拡大アクションプログラム」を進めています。誰か一人ではなく、NPO、県、市町村が“たし算”で県内の環境全体を考えていきます。